

梅窓院通信

No. 71
2014/06/01

青山



増上寺御忌詠唱奉納大会…4月3日・4日の2日間、増上寺大殿にて、約120の寺院・詠唱会の参加による増上寺御忌詠唱奉納大会が盛大に行われました。梅窓院詠唱会は「三上人遠忌和讃」を奉納致しました。

住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島 真成



今年もはや半年が過ぎました。天候不順は相変わらずですが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。さて、4月24日に浄土宗総本山知恩院の叙任式で僧正という位を頂きました。

お坊さんにも位があるの？ という声が聞こえてきそうですが、浄土宗では資格分限（分限は位のこと）といって、僧侶としての資格の僧階、布教師としての資格の教階、学問としての資格の学階と3種類の資格分限があり、それぞれに6段階の位があります。今回の叙任は、
律師・少僧都・僧都、大僧都 僧正、正僧正
という位の中の僧正です。

こうした位は各々での年数、浄土宗の役職就任や寄付金に対して与えられる功績点などで決まるものです。

また、この位により、衣の色も違ってきます。

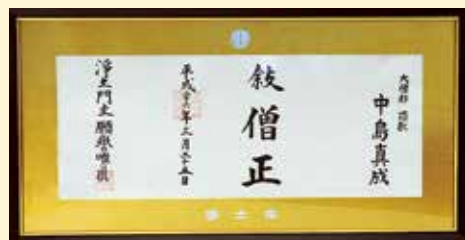
律師・少僧都……………緑色の香衣

僧都……………緑色と紫色の松襲

大僧都・僧正・正僧正……………紫色の紫衣

となります。これに許可が必要な緋の衣となります。お坊さんの世界もこうした位があるのです。

さて、7月14日より客殿のある建物の14階にも20人位までの後席用の部屋ができます。お料理は光石さん指定となります。お檀家の皆様により便利にご活用頂ければ幸いに存じます。



4月24日、浄土宗総本山知恩院での叙任式で授与された僧正の資格分限の進叙状。

七夕と七日盆

新宿区 香蓮寺住職

勝崎裕彦

な つかしい小学唱歌「たなばたま」(権藤はなよ作詞)の歌詞が聞こえる。

ささの葉さらさらのきばにゆれる お星さまきらきら きんぎん砂子

五しきのたんざく わたしがかいた お星さまきらきら 空からみてる

七月七日は五節供(五節句)の一つである七夕である。陰暦の七月七日であるから、本来は秋、初秋の行事である。初秋の夜空であるから、天の川もくつきりと見え、かの牽牛・織女の伝説に、秋夜の大空へはるかにかきりない思いを寄せるのも、まことに頷かれるのである。

天の川・天の河は、漢語では天河・天江・天漢・天潢・銀河などという。漢語ではほかに、河漢・雲漢・銀漢なども天の川のことをいい、もともと漢という字は、水+莫(水がないこと、かわくこと)の会意兼形声文字で、水のない天空の銀河の意味である。

この天の川の下方には鷲座の主星ア

ルタイル・牽牛星が、上方には琴座の主星ヴェガ・織女星が、際立つ光彩を放って光り輝いている。ちょうど七夕の頃、この二星が天の川をはさんで接近する星合の夜となる。牽牛星は彦星・男星・犬飼星などと呼ばれ、織女星は妻星・女星・機織姫・棚機姫などと呼ばれ、七夕の夜に男七夕と女七夕がめぐり合う逢瀬を星の契・星の恋・星の妹背・乏し妻・星今宵・星の別などともいい、星合の夜を広く星迎・星祭と呼称する。

夕ごろはなやぎ迎う二星かな (麦南) 暁のしづかに星の別れかな (子規)

一年に一度の星逢う夜、星の夫・星の妻・女夫星のはかなくも、はげしい恋心を、西島麦南と正岡子規の二句に集約して思いを馳せたい。

ところで七夕は、夏から秋へ季節が移り変わる節目の行事である。元来は、稲作を中心とした秋の収穫へ向けて祖先の精霊を祀るということに対して、海辺・湖辺・川辺などに架けづくりの棚を特別に設けて、神女が祖霊の来臨のために衣づくりの機を織った。これが機織姫・棚機姫であり、いわゆる「棚機」の語源でもある。

平安時代に宮中の行事として中国から伝わった乞巧奠は、「巧みを乞う奠

という意味で陰暦七月七日の行事である。中国では古くから牽牛星は農耕・農作を司り、織女星は養蚕・織物を司る星として信仰してきたが、機織りや針仕事の裁縫が上達するようにという女性の願いが、巧みを乞う乞巧奠の儀式の定着となつて、七夕の習俗とよく交じり合ったのである。

実は七夕の行事は、仏教の盆行事とも深くかかわるものである。茅萱や真菰でつくる七夕馬が、茄子の牛や瓜の馬といった盆供えの習俗との類似性として解くまでもなく、祖先の霊を祀るはじめの日、すなわち盆に入る日をおもては七月七日、七夕の日としていたことでも分かるのである。いわゆる七日盆であり、これを盆始めとする考え方は、今でも各地の習俗に残っている。

さて七夕といえは、笹竹・七夕竹に五色の短冊をつるしていろいろの思いや願いを書いて、夢や希望をふくらませた子供の頃がなつかしい。軒場に立てた七夕飾りを見つめ、見上げる子供時代の自分の姿を思い出すと、とてもセンチメンタルになってしまうが、このセンチメンタルという言葉自体がすでにとても古いものになってしまったことに、さらに感傷的になってしまいう私である。(大正大学学長)

三月・四月の

行事報告

平成26年春彼岸法要

3月21日(金)



尼僧によって動物慰霊法要が執り行われました。



今年も20・21日と郡上八幡物産展を開催致しました。



今年郡上おどりも奉納されました。

寄席での一幕。

増上寺詠唱大会

4月4日(金) ※表紙写真をご覧下さい。



はなまつり 4月5日(土)〜8日(火)

お盆 七月十三日(日)

盂蘭盆会法要 — 午前十時半 — 地下二階 祖師堂

御棚経 七月十三日〜十六日

※新盆でご希望する方のみ

なお、棚経については同封の別紙「お盆について」をご覧ください。また、不明な点がありましたら梅窓院法務部へお問い合わせ下さい。

お盆に寄せて

池の水 人の心に
似たりけり
濁り澄むこと 定めなければ
法然上人 御歌

初夏のさわやかな風が木々の
緑とたわむれる頃となりました。
た。いかがお過ごしでしょうか。

冒頭で紹介しましたお歌は、
法然上人が池の水が濁ったり澄
んだりするように私たちの心も

一向に定まらない様を読まれた
ものです。このような迷い迷え
る私たちだからこそ、阿弥陀様
のお念仏の教えを頼りにするの
です。

また、池は底に泥がたまって
います。そのような池の泥の淀
みにも負けず、むしろその泥を
栄養として咲く花があります。
蓮です。泥はこの娑婆世界の穢
れや執着を表しています。蓮の
花はそうした穢れに染まらず美
しく咲き誇ります。したがって
蓮の花は仏の花ともいわれ、寺
院やご仏壇の荘厳に多く用いら
れています。都内で七月を中心
に行われる盂蘭盆のお飾りにも
蓮の花が用いられます。

盂蘭盆の起りは今から二五
〇〇年前のお釈迦様の時代に遡
ります。目連尊者のお母様は、
我が子への愛情は注いだもの
の、他人への思いやりに欠けて
いた為、餓鬼道に堕ちてしま

ました。そこで目連尊者はお釈
迦様に母を救いたいと申し出ま
した。するとお釈迦様は「夏の
修行の終わりに餓鬼の供養を施
せば助かる」と目連尊者にお説
きになりました。これが盂蘭盆
会のはじまりです。現在では餓
鬼の供養と併せて先祖供養をす
る行事として全国に広がり、各
地で地域色豊かな盂蘭盆会が行
われています。

梅窓院の盂蘭盆会の法要は七
月十三日に行われます。どうぞ
法要当日は、お孫さんを含めご
家族揃ってお参りください。そ
してご先祖様へ思いを馳せてい
ただき、声高らかにお念仏をお
称えしましょう。

回向料のお申込み方法とお知らせ

◆盂蘭盆会 回向お申込み方法

回向紙 御回向料 …… 1枚 / 3000円

・同封の回向紙にご記入の上、7月13日(日)までに
受付へお持ち下さい。

・一枚につき、一霊の御回向とさせていただきます。

御塔婆 御回向料 …… 1本 / 7000円

・御塔婆をご希望の方は、7月1日(火)までに受
付にご連絡下さい。

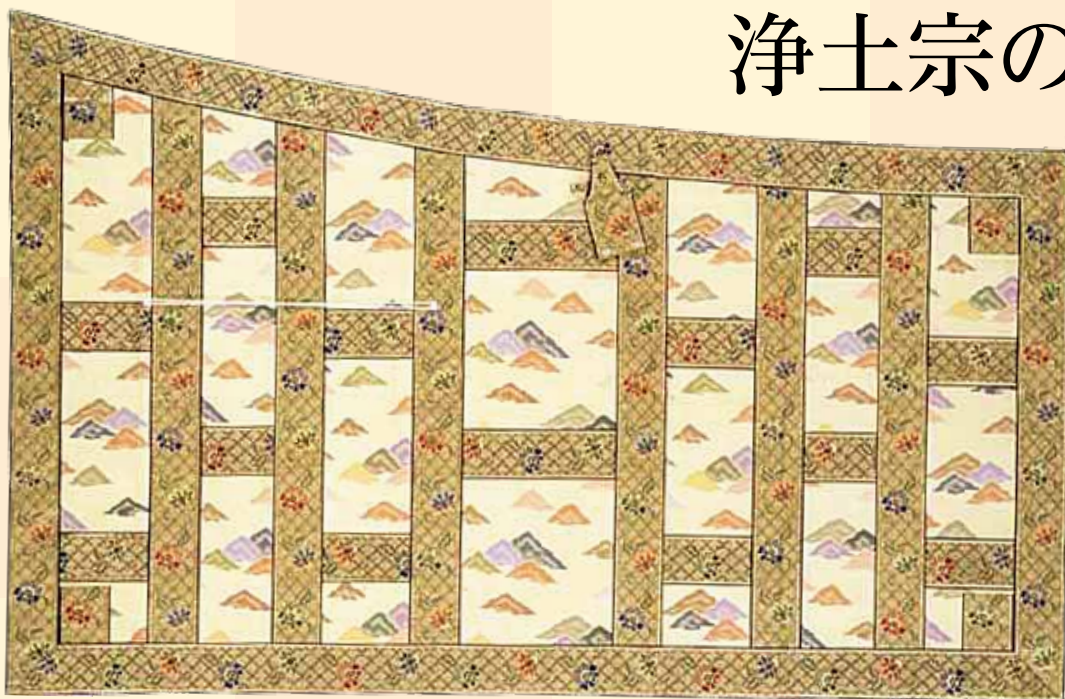
・御回向料は、同封の振込用紙で郵便局にてお支
払頂くか、受付までお持ち下さい。(銀行・コンビニ
でのお支払いは出来ません。)

(法務部)

浄土宗の仏具と衣

第1回 袈裟 その①

特集の新シリーズ第二回目をお届けします。皆さんが普段お寺で目にされている仏具、お坊さんが手にしているものや身に着けている衣や袈裟など、「浄土宗の仏具と衣」と題して、そのいわれや目的、そして種類など、分かりやすく説明して参りますので、どうぞご愛読下さい。



広げた状態の七條袈裟。七つに分かれた台形状の大きな布で、これを「環」と「したら紐」を使ってとめる。
(写真提供・島津法衣店)

今回はお坊さんが身に着ける中で一番目立つ七條袈裟を説明します。

もともと袈裟はお坊さんが身に着ける衣で、糞掃衣とか、福田衣とか、法衣と呼んでいます。

袈裟はお釈迦様が誕生されたインドで生まれたもので、私有物を持つてはいけない僧侶が、いらなくなつたボ口布を縫い合わせて身にまとつたのが袈裟の始まりです。

普通の人々が身に着ける白い布と区別するために、僧侶は縫い合わせた布を黄土色などに染め直しました。色々な色の布があつてもそれを染め直すことでそれまでの色を壊したことから、壊色とも言われま

す。

インドは暑い国ですから、布一枚を身にまえば十分ですが、仏教が



寒い地方である中国、朝鮮、

そして日本へと広がるうちに袈裟はその姿を変えました。

なかでも日本では時代とともに袈裟がどんどん華美になりました。だからと言って原点を忘れた訳ではなく、如法衣といってインドで生まれた袈裟に近い袈裟ももちろん身に着けています。つまり、シンプルなものから豪華絢爛なものまでうまく使い分けている、と理解して下さい。なお、このシンプルな如法衣は改めて紹介し

して、したらと呼ばれる紐と、環と呼ばれる輪つか状のもので結びます。ちなみに右肩を出すのは仏さまへの尊敬の念を表しています。

七條袈裟の柄は様々で、極楽の様子を描いたものや、念仏や経文が刺繍されたもの、あるいは浄土宗の宗紋や徳川家の葵紋があらわされたものなど、色々なものがあります。

また七條袈裟に仕立てられる布や、したらという紐にも金色や銀色などの糸が使われるものもあり、ボ口布の寄せ集めから始まつた袈裟は長い歴史の中、そして広がった地域性で大きく変化したといえます。

今回の七條袈裟は日本で最も華美化した袈裟といつてよく、主に大きな法要やお葬式で導師という真ん中に座られ、一番大切な儀式を行う僧侶が身に着けます。

七條袈裟は広げると、長四角に近い台形状の大きな布で、七つの帯に区切られています(写真参考)。この大きな布を右肩を出して身体に巻き付けます。そ

梅窓院では、この七條袈裟を、各種法要では住職が、通夜葬儀の葬儀式では導師を務められる僧侶が身に着けています。次回の法要ではちよつと気にしてご覧下さい。



七條袈裟を身に着けた中島住職。

梅真会シリーズとしてお届けしている囲む人々、今号は長野の名刹・寛慶寺の住職、 上人にご登場頂きました。サラーマン家庭で生まれ、ご縁を得て、僧侶になられた住職で、この梅真会シリーズの中では一番若い僧侶になられます。

◆本日はお忙しい中、お時間を頂きありがとうございます。さっそくですが、梅窓院にはいつ入られたのでしょうか。

大学に入る年の3月ですね。

◆大学は大正大学ですね。

ええ、昭和50年入学で梵文学を学びました。私は入学試験が終わってすぐに随身を希望したこともあって、先生の紹介で梅窓院の寮に入らせてもらいました。3月のお彼岸明けだったと思いますが、先々代中島真孝先生の一周忌法要が終わってすぐだったようです。

◆ 住職は長野の出身と伺っていますが、長野はこの寛慶寺のある長野市でしょうか。

いいえ、飯田というところです。長野の岡谷を源流とする静岡に流れ込む天竜川沿いで、いわゆる南信で、岐阜県に近い交通の便があまりよくない所です。

◆僧侶になられた理由はなんのでしょうか。

飯田での高校時代は理科系で国立の歯学部を希望していたのですが、受験に失敗、浪人生活を送る中、少々生活が乱れまして(笑)、そんな時、近くの浄土宗寺院、来迎寺のご住職に大正大学の梵文学部を勧められて大正大学に入り、大学で勉強しているうちに僧侶になる道を選びました。

◆ご両親からは反対されませんでしたか。

反対はありませんでしたが、飯田で一緒に生活をしたいと思っていたようです。

◆そうですね、梅窓院での寮生活の思い出をお聞かせ下さい。

はい。実は寮には長くお世話になっていまして……。留年の1年を含めて大学時代の5年、そして卒業後の1年のお礼奉公を含めて都合6年間お世話になっています。

入った頃は6人の寮生がいて、とても賑やかな頃でした。当時は週番といって、寮生の1人が交代で1週間ずつ玄関脇の部屋で留守番をしていました。また、ちょうど入った時に住職は別棟の新居に移られ、食事が別々になったようで、寮生は食費をもらって日替わりの食事当番が作ったご飯を食べていました。私は料理が好きだったので、当番の時は学校へ行かず一日料理していました。

◆(笑)得意料理はありましたか。

カレーライスとジャーマンスープです。もともと凝り性のと

懐かしそうに梅窓院時代の思い出を話してくれた住職。



寛慶寺本尊と一緒に。中島住職と 住職。

ころがあるので、料理を作るとなると、肉は……、野菜は……と買い出しから考え始めました。そして、肉はピーコック、野菜は紀ノ国屋まで買い出しに行き作っていました。先輩たちも喜んで食べてくれました。

◆おいしい料理は喜ばれたのではないですか。

ええ、でも料理作り的一生懸命になり過ぎて学業がおろそかになって、結局卒論が間に合わず5年生になったのだから、良かったのだから、悪かったのだから(笑)。

◆でも、先輩だけでなく後輩も さんの美味しい料理を味わえてきっと感謝されていますよ。

そうだといいですね(笑)。

◆料理以外の思い出と伺いますと。

お茶、ですね。

ちょうど寮に入った頃にお茶室が作られました。三昧亭と普光庵という2つのお茶室です。きっと、この読者の方も覚えているのではないですか。先代の奥様がお茶の先生でしたから。

◆ 大奥様ですね。

ええ。ですが、若い男ですから、お茶そのものになかなか興味が湧くはずもなく、むしろ私は茶室の庭の手入れに興味を湧かまして……。

◆庭の手入れといえば今の梅窓院は晴風苑の さんをお願いしていますか。

ええ、その さんのお父さんの時代ですね、私の頃は。

お茶室の庭は四季折々の表情が欠かせませんから、植木の手入れは怠れません。私はよくその手伝いをしましてね。今の植木好きもその頃の影響です。

◆で、お茶の方はいかがですか。

おかげさまで、いまでも一応のお作法は身に付いています。若いころは気付きませんでした。お茶をたしなむということは、日本の伝統文化を身に付けるということですからね。大奥様にお礼を申し上げないと。

◆はい、今度伝えておきます。先代、真哉住職で覚えていることはありますか。

そうですね、色々教わりましたが、お寺の事務処理や運営に関することがとても活きています。幸い立派なお寺にご縁を頂きましたが、何とかやっつけているのも、梅窓院時代の経験があってこそ、と言えますね。

◆本日はお忙しい中、ありがとうございました。今後も梅真会をよろしく願い致します。

昭和30年、長野県飯田市生まれ。大正大学卒業後、26歳で現在住職を務める寛慶寺に入る。30歳で生まれ故郷、飯田市出身の奥様と結婚。旧姓名は西川義隆。

青山散歩道

— 特別寄稿 —

ラ・ベットラ・ダ・オチアイ
梅窓院檀信徒

さん

梅窓院のお檀家様のお店をご紹介します。この青山散歩道特別編、第二回は「予約の取れない店」として有名なイタリア料理店「ラ・ベットラ・ダ・オチアイ」のオーナーシェフ、さんにご登場頂きました。さんは四年前に梅窓院の檀家になられ、平成23年秋には文化講演会で実演入りの講演も頂いています。では、さっそく予約の取れない理由を伺いましょう。

銀座といっても少し奥まった静かな場所にラ・ベットラ・ダ・オチアイを開店して17年になります。お蔭さまで予約の取れない店として有名になり、このフレーズが冠されたレトルト食品まで出して頂いています。

さて、いつも開店当時から同じ価格でよくやっていけますねと聞かれますが、その秘密はこの店がお客様の立場で嬉しいと思う次の四つのことを大切にしているからだと思います。

- ① 美味しい料理
 - ② 手頃な値段
 - ③ 差額なしで選べるメニュー
 - ④ 心地良いサービス
- ① 番目の美味しい料理、これ当たり前です。プロの料理人ですからね。
- ② 番目の手頃な値段については、ランチが1200円、ディナーが3800円(ともに税抜)。どちらも前菜、パスタ、メインと楽しめ、ディ



銀座ながらもメインストリートから歩いて5分ぐらいの閑静な場所にある。

ナーで一杯ワインを飲んでも5000円以内、これなら普通のサラリーマンやOLがちよっと背伸びすれば昼でも夜でも自分のお金で食べられる、という価格設定です。接待や記念日だからといった店にはした

- ③ 番目の選べるメニュー、メニューがなくて迷えるのって心躍るじゃないですか。これも食べたい、あれも食べたい、って幸せでしょう(笑)。前菜、パスタ、メインのどれもが、野菜、魚、肉、そして季節の物から選べて組み合わせられる。
- ④ 番目が一番大変で、料理人はある程度育てる自信はあるけれど、フコアサービスを育てるのは大変。料理人には料理という目に見える物があるけれど、サービスはお客様の喜びや満足や自分のものとして心から喜べる感性や素養が必要になります。



江戸っ子のさんは気さくでサービス精神旺盛。シェフとしても人としても魅力的。

青山俳壇

選者「ウエップ俳句通信」編集長

大崎 紀夫

◎ 特選

○ 犬ふぐりひそかに咲くや野のくぼみ

◎ 入選

- 天を指す右手ぬれづめ甘茶仏
- 天鵞絨の布地のやうな春の海
- 一人身の自由楽しみ日向ぼこ
- 満開の花に鳶舞ひ鳥晴るる
- 春日和手足伸ばして空仰ぐ
- 子守りせし孫華やぎて卒業す
- ふるまひの甘茶に和み深呼吸
- 濡緑に出て爪を切るあたたかし

◎ 選者誌

○ 山桜しばらく坂をゆけば家

大崎 紀夫

〈ワンポイントアドバイス〉

俳句で「花」といえば「桜」のこと。桜に関連した季語はほかにたくさんあります。山桜、枝垂桜、八重桜などは種類の違いを、夕桜、夜桜は見る時間の違いを、そして散る桜、花吹雪は花の状態を、盛りをすぎても、残花遅桜などという言い方があります。「お花見」も、もちろん季語。季語を使い分けて桜のいろいろな表情を詠んでみたいものです。ちなみに花が終わったあとの季語は「桜葉降る」「一葉桜」があります。

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウエップ編集室
電話03-5368-1870

投句募集

今回は「夏の季語」でご自由にお詠み下さい。7月1日を締切り、9月発送の『秋彼岸号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さいませ。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

予約の取れないレストランとして有名な LA BETTOLA da Ochiai(ラベットラダオチアイ)。行ったことがなくてもご存じの方が多いのではないのでしょうか。

店名にも入っているBETTOLA(ベットラ)とは定食屋という意味。落合シェフの気軽にイタリア料理を味わって欲しいという思いが



メイン・子羊の香草グリル。



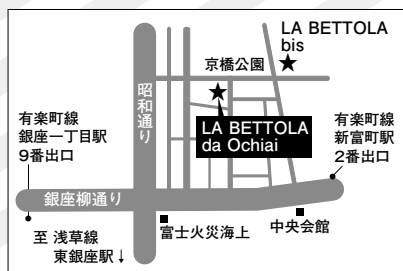
前菜・吉田農場のモッツアレラチーズとバジルのサラダ。



席数は36席と、一番美味しいタイミングで出せる席数となっている。

ランチはAコース・¥1,200(パスタ+ブルスケッタラッカ・平日のみ)、Bコース・¥1,800(前菜+パスタ)、Cコース・¥2,800(前菜+パスタ+メイン)、ディナー(前菜+パスタ+メイン)は¥3,800(税抜)。各コースとも、全40種類以上のメニューから各1品料理を選ぶことができ、どのように選んでも追加料金がかかるとは嬉しい。1皿ずつのボリュームもあり、見た目も綺麗で、もちろん美味しく大満足。

次は何を食べようかと、何度も訪れたいなお店。人気があるのは納得です!!



営業時間/ランチ 11:30~14:00(L.O)/ディナー 18:30~22:00(L.O)/土・祝日 18:00~21:30(ラ・ベットラ・ビス同様)
定休日/日曜日・第1・3月曜日(ラ・ベットラ・ビス同様)
席数/36席(ラ・ベットラ・ビス 21席)
住所/東京都中央区銀座1-21-2(ラ・ベットラ・ビス 東京都中央区銀座1-27-8)
TEL/03-3567-5656(ラ・ベットラ・ビス 03-3567-5657)

からね。店名のベットラはイタリア語で定食屋とかめし処という意味です。皆さんが聞いたことのある、リストランテ、トラットリア、タベルナなどご存じでしょうが、ベットラは一番下、つまり最も庶民的な大衆食堂を意味します。僕としては、家の台所や食堂のようにわいわい騒げる店で、楽しい時はもちろん、落ち込んでいる時もこの店で食事す



姉妹店のラ・ベットラ・ビスはお代わりという意味で、本店と同じく美味しい料理が楽しめます。

は、家の台所や食堂のようにわいわい騒げる店で、楽しい時はもちろん、落ち込んでいる時もこの店で食事す

ると気分一新、元気になれる店が目標で、それは今も全く変わっていませんし、今後も変わらないでしょう。

最後に夢というか希望を申し上げると、後継者の育成です。後継者といっても自分の店とかではなく、日本のイタリア料理界全体の後継者育成です。一昔前は、パスダが硬い、と怒られたのが、今はパスダが柔らかい、と怒られる時代になりました。ようやく根付いたイタリア料理ですから、もっともっと楽しんでもらいたい。そのための幅広い意味での後継者育成に力を注ぎたいですね。

第五十五回

食は命

食養研究家 武鈴子

糖尿病・夏バテ予防「麦とろ」

夏(の行事)といえば7月7日の「七夕祭」。星祭りともいいます。江戸時代に五節句の一つに定められました。願い事を書いた短冊を吊るした笹を飾り、星を眺め、そーめんやスイカなど夏の味覚をいただく。笹飾りは、笹は邪気を払い、葉のすれ合う音が神様を招くと考えられていたようです。

7月下旬の土用のころは暑さが厳しく、夏バテを防ぐために栄養のあるウナギを食べたいところですが、値段がうなぎ上りに値上がりしては満足に食べられそうもありません。そこで滋養たっぷりの山芋をすりおろして、とろろそばや麦とろにしていたのはいかがでしょうか。麦ご飯にたっぷりとうろろを載せ、ワサビを添えていただく。薬食物の効能を記載した「本草綱目」には「大麦は五穀の長。糖尿病による口の渇きを止める…」と記載されています。また、山芋は脾臓と腎臓の動きを補助機能が高いため、この両者の組合せは糖尿病予防に最適な食べ物と言えるでしょう。

8月に入ると間もなく暦の上では立秋。しかし、この頃は一年でもっとも暑い時期。13日から16日頃が盂蘭盆会です。(東京と近郊では7月の13日から16日で、梅窓院も7月です)先祖や亡くなった方をお迎えして精進料理をお供えし、先祖の霊を慰めるための盆踊りが各地で盛んです。炎暑の夏は体温を調節するために発汗が盛んになり、そのため心臓はフル稼働です。反面、体表に血液を奪われ、胃腸は貧血状態となって、食欲不振や消化不良、下痢などの胃腸障害に見舞われます。これが夏バテの原因です。また、冷たい飲み物、食べ物の摂りすぎも胃腸の元気を損ないます。ビールやジュースの飲みすぎにご用心を!

行事予定

開山忌法要・能楽奉納

6月14日(土)

法要 午後3時～ 本堂
能楽 午後4時～ 祖師堂

第62回 念仏と法話の会

6月19日(木)

11時20分～(受付11時より開始)

郡上物産展

6月28日(土)～29日(日)

午後1時～午後7時半 観音堂
(29日(日)午後7時まで)

盂蘭盆会法要

7月13日(日)

午前10時半より 祖師堂
※詳細は3面をご覧ください。

お檀家さんに伺いました

平成26年春彼岸法要にて

「梅窓院のご詠歌が好きです」

今日は、元旦の修正会に続き彼岸法要に参加しました。法要前に妹のお墓参りもしましたが、妹は桜が好きだったので、蕾が咲いたらさきと喜ぶと思います。私は梅窓院のご詠歌がとても好きで、今日も一緒に歌いました。明るくて良いですね。それから、小さいお子さんが参加できる行事もあればいいかなと思います。

「梅窓院行事の魅力」

今年の寄席は、踊りも入ってとても面白かったです。お寺の行事と聞くと、普通はお説教ばかりが思い浮かびますが、梅窓院の行事は、檀家の多世代の信徒が一堂に集う楽しいものと、法要の組み合わせが絶妙で、めりはりがとても良いと思います。

発行 梅窓院
発行日 平成26年6月1日
発行人 中島 真成
編集 青山文化村
住所 〒107-0062
東京都港区南青山2-26-38
電話 03-3404-8447
FAX 03-3404-8436
ホームページ <http://www.baisouin.or.jp/>
E-Mail jodo@baisouin.or.jp
題字 中村康隆元浄土門主
総本山知恩院第八十六世門跡

墓地の水道について

3区の一部で水圧の弱い区画がございますが、配管の関係で修理が困難・高額な状況です。混雑時は大変ご迷惑をおかけ致しますが、お並び頂きますか近くの水道をご利用頂きますよう、ご協力をお願い致します。

平成26年度 前期 仏教講座のご案内

全講座▶午後6時～8時 受講料▶無料 場所▶祖師堂

講 題／三統・お経を読む

講 師／阿川 正貫 先生(浄土寺住職、大正大学講師)

- 第1回…6月 3日(火) 善導大師の『往生礼讃』より③
- 第2回…8月19日(火) 善導大師の『往生礼讃』より④
- 第3回…9月10日(水) 善導大師の『往生礼讃』より⑤

講 題／釈尊の最後の教え —『仏遺教経』を読む—

講 師／新井 俊定 先生(天然寺住職)

- 第2回…6月26日(木) 『仏遺教経』5
- 第3回…8月 7日(木) 『仏遺教経』6

講 題／大乘仏教を読む

講 師／勝崎 裕彦 先生(大正大学学長 香蓮寺住職)

- 第1回…6月12日(木) 薬王菩薩本事品第二十三の教え
- 第2回…7月31日(木) 観世音菩薩普門品第二十五の教えI
- 第3回…8月28日(木) 観世音菩薩普門品第二十五の教えII

講 題／法然上人のみ教え —『選択集』を読む—

講 師／林田 康順 先生(大正大学教授、大本山増上寺布教師、慶岸寺副住職)

- 第3回…7月 4日(金) 『選択集』第8章 三つの心③ —深心(下)—

講 題／仏教民俗学入門(1)

講 師／本林 靖久 先生(大谷大学・佛教大学講師、真宗大谷派僧侶)

- 第2回…7月11日(金) 仏教年中行事 —祈願と滅罪—
- 第3回…9月19日(金) 仏教法会 —祈祷と供養—

秋彼岸写真展開催

春彼岸号よりお伝えして参りました秋彼岸写真コンクールの応募要項を同封致しました。是非皆様ご参加下さい。